



全日本同和会関東東北連合会研修大会



9月19日(金) 憲政記念館(東京都千代田区永田町1-1-1)で、全日本同和会関東東北連合会主催の「平成26年度 全日本同和会関東東北連合会研修大会」が開催された。

本研修大会は、同和問題の完全な解決を図るため、連合会が連携を図り、お互いに情報交換をし、人権侵害やいじめ、差別事象の起こることがないように、年一度研修大会を行い今回で7回目となる。当日は、1都1道11県から約500名の各県連の会員及び自治体職員が参加した。

開催地会長である、平地東京都連会長挨拶の後、山本埼玉県連合会長の大会会長挨拶で、「漫画「美味しんぼ」による風評被害の助長は福島県にとどまることなく、関東東北にまたがる大きな人権問題であるとし、福島県知事に質問状を提出し話し合いに臨んだ。また、札幌市議会議員がインターネットの投稿サイトに「アイヌ民族なんて、今はもういない」など書き込み、大きな問題となっており、これは先住民族としての誇りや文化・暮らしを否定するような人権感覚である。こうした問題は、最近頻発して見受けられ、人権問題の中核とされる同和問題においても、課題が残されたままであるので、全ての差別に毅然とした態度で、教育・啓発活動を積極的に推進していく。」という旨の挨拶を行ない、本研修大会の重要性を語った。来賓祝辞として、松尾信悟全日本同和会会長、片山さつき参議院議員等から、「いじめや差別のない社会づくりに御尽力いただきたい。」とご祝辞をいただき、また、国会議員をはじめとして県知事、市長等多くの方々から、祝電も寄せられた。



研修に移り、NPO法人 ムワンガザ・ファンデーション理事長の小林フィデア氏による「タンザニアから日本の皆さんへ伝えたい事 ~ソーテ・サワサワ 命の重さはみんな同じ~」という演題で講演が行なわれた。

フィデア氏は、アフリカ タンザニア生まれで心身障害児養護施設の教員となり、青年海外協力隊員として赴任していた小林氏と結婚し、19年前に長野県に來日した。來日して2年目、市内の靴店で突然「出て行ってくれ」と追い出され、国や肌の色の違いにより、あからさまな差別を受け、「みんな同じ人間」という思いを伝えたいと現在の活動を続けている。



講演のなかでフィデア氏は、一緒に生活する中で受け入れていった人々と、外国出身ということだけで排除した人々。フィデア氏のこういった経験から、日本人は助け合いや思いやりの心を失いかけていと訴えた。

続いて、ディスカッションに移り、山本大会会長、古長福島県連会長、浅野北海道連会長らがパネリストになり、参加者から「今回の「美味しんぼ」「アイヌ発言」に関して関東東北連合会としての考えについて」などの質問が出された。

各パネリストからは、多くの意見が出され、その意見を、オブザーバーの高橋編集局長が次のように取りまとめた。「これらの問題は、同和問題に相通じるものがあり、人権団体として何もせず傍観しているわけにはいかない。関東東北連合会はさらにブロック体制を強化し、同和問題完全解決、また、すべての差別に企業、行政、一般市民の皆様と一体になり、対話と協調を基調にしていくべきだ。」とまとめた。

最後に、古長福島県連会長のシュプレヒコールで人権問題の完全解決を期し研修大会を閉じた。

(※なお、大会の様子は You Tube でご覧いただけます。)

国連NGO横浜国際人権センター・山梨ランチ

代表 横山 隆史 (全日本同和会山梨県連合会会長)

〒400-0831 甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1階 TEL 055-243-8563